



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 野中 直子  
7号編集 新田 雅一  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## コロナ渦での学生生活 (コロナ渦での1年間を振り返って)

学生部長 上條 竜太郎

新型コロナウイルスの感染拡大は、2年目となった現在も世界中の人々の暮らしと仕事の全体を大きく変えています。その変化はどこまで広がるのか、収束はいつなのか、元の世界に戻るのか、それとも後戻りできず新しい社会が始まるのか、はっきりとしたことは誰にもわからない中、学生の日常は様々な影響を受けています。新型コロナウイルス感染症の拡大が継続し、将来が見通せない状況下では本学で新型コロナウイルス感染症の拡大とともに、課外活動は昨年3月に全面的に停止となりました。これは全国的な傾向で、今年には既に、全日本歯科学学生総合体育大会、東日本医科学学生総合体育大会がともに全面的に中止となりました。その後本学では、活動停止の解除を致しましたが極めて短期間で、現在は活動再開を延期しております。そのような中で、毎年秋に実施しております「旗ヶ丘祭」だけは現時点で開催予定でありまして、実行委員の皆さんは慎重かつ全力で準備を進めています。このような環境下でも、学生皆さんの医療人としての基盤が健全に培われるよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。



## D2,D3「研究入門」の成績優秀者の表彰を行いました

口腔生化学講座 宇山 理紗

令和2年度の「研究入門」を履修した学生は、歯学部2年生(D2)17名(現3年生)、歯学部3年生(D3)3名(現4年生)でした。今回D2からは5名、D3から3名の学生が優秀者として令和3年6月17日に表彰されました。

本選択科目は、学生が8日間、基礎系の研究室で各自設定した目標に向かって研究を行うものです。履修者は実習後に報告書を提出し、その内容を基礎系の各講座・部門の教育職員が評価しました。その結果、D2は1位が吉田力生さん、2位が嘉鳥 杏さん、3位が望月健太郎さん、4位が桐谷七彩さんと

中川結彩子さんとなりました。また、D3は1位が清水美咲さん、2位が李 悟さん、3位が藤島美穂さんとなりました。選ばれた学生達は、高見正道大学院歯学研究科長より表彰状を授与されました。未知なる基礎研究への興味とともに、本実習で経験した研究手法および研究遂行能力を是非将来にいかして頂きたいと思います。



## 「研究入門」で表彰されました

歯学部3年 嘉鳥 杏

この度、賞を授与していただきありがとうございます。思いがけない受賞に驚いたのと同時に身の引き締まる思いがいたしました。

賞をいただいた研究レポートは間葉細胞や成長因子 FGF-7 や FGF-10 が唾液腺発生にどのように関与しているかをマウスの唾液腺を用いて調べまとめたものです。唾液腺発生を間葉細胞が促進することは今までの研究から明らかになっていますがその機序や間葉細胞中のどの因子が直接作用しているかはまだ完全に解明されておらず、研究がなされている途中です。

この実習では材料の準備としてマウスから唾液腺を単離する作業や培養像の観察、遺伝子増幅など授業ではできない、専門的な内容を少人数で取り組むからこそできる経験をたくさんさせていただきました。教科書の知識で理解したつもりでいた内容が研究を進めて理解が深まることでふいに腑に落ちることもあれば、教科書通りの結果にならず原因もわからないこともあり実際に手を動かし体験することの意義を大きく感じました。また、日々研究に取り組まれる先生方の姿や研究室で学ぶことはとても新鮮で刺激となりました。

最後に研究をご指導くださった諸先生方、本当にありがとうございました。



## 「研究入門」で表彰されました

歯学部3年 桐谷 七彩

この度、令和3年3月10～19日に行われた研究入門において、成績優秀賞をいただきました。

私は口腔生化学講座で「脂肪細胞分化における乳酸脱水素酵素の役割」について、先輩方や同輩とともに実験や考察をしました。研究入門は必修ではありませんでしたが、細胞分化や遺伝子という苦手な分野に挑戦したいという思いと、先生方が普段おられる研究室がどのような場所なのかという興味から受講を決めました。今回の研究入門では普段の講義で学習した内容について実際に手を動かし理解を深めていく実習とは異なり、まだ真理が追求されていないことについて実験しました。そのため予想とは違う結果になったとしても実験操作において正確性に欠けていたという可能性だけでなく、考えていた過程とは異なることが細胞内で起きているかもしれない、という新しい視点を持つことの重要性を学ぶことができました。

いつも明るい雰囲気の研究室で優しい先生方に囲まれ、とても充実した日々を過ごすことができました。お世話になりました口腔生化学講座の先生方には感謝申し上げますとともに今回の素敵な先生方と先輩方との出会いで学んだことを、今後の学生生活に活かしていきたいと思えます。



## 「研究入門」で表彰されました

歯学部3年 中川 結彩子

この度、研究入門にて表彰していただき、大変嬉しく思います。ご指導いただきました高見正道先生をはじめ、歯科薬理学の先生方、大学院生の皆様に心より感謝申し上げます。

今回、骨吸収抑制剤であるゾレドロネートの投与による破骨細胞と骨芽細胞の変化、骨の修復と再生の変化を明らかにすることを目的に、培養細胞、マウスの大腿骨、メダカの尾びれを用いた三つの実験を行いました。約二週間という短い期間ではありましたが、大変興味深い結果を得ることができ、とても学びの多い日々となりました。幼い頃から研究者になりたいという夢を抱いてきた私にとって、この経験はそれまで遠かった夢に近づく大きな一歩となりました。今あるわずかな知識から、未知の予想をたて実験を行うのは、大変難しく苦しい時もありました。しかしそれ以上に、予想通りもしくはそれを上回る結果を得た時の喜びや感動は、生涯忘れることがないと思えます。結果が予想外の時は、なぜ？どうして？と何時間も考察し



ましたが、その時間も我を忘れるほど、大変貴重な時間となりました。

常に疑問を抱き追及する姿勢を忘れず、今回の経験を糧に、今後も夢に向けて頑張っていきたいと思えます。

## 「研究入門」で表彰されました

歯学部3年 望月 健太郎

この度、2年次研究入門実習にて受賞することができ、大変嬉しく思います。研究実習をするにあたり口腔病理学教室の先生方をはじめ、研究入門実習に関わってくださった先生方におきましては、深く感謝申し上げます。



私は口腔病理学教室でマウスの胎子から唾液腺を摘出し、唾液腺がどの因子の影響を受けて、唾液腺が発生するのかを研究させていただきました。研究するにあたり、マウスの胎子から唾液腺を摘出したり、唾液腺が発生しているのかどうかを調べるためにPCR検査を行ったりと、実験を正確に行うために地道に一つ一つの作業をしなければならず、研究の成果は研究者の努力と苦勞の賜物であると改めて実感しました。その分、研究の成果が上手く現れたときの達成感と嬉しさはひとしおです。

短い期間ではありましたが、“謎の探究”を通して体験することができ、一人の研究者になった気分でした。また、実際に研究室での研究者としての仕事の重要性や大変さも知ることができました。自分の将来について具体的な進路は決まっていますが、この入門の実習により将来への選択肢のひとつとなり、視野が広がりました。改めまして、感謝申し上げますとともに、今後益々勉学に精進していきたいと思えます。

## 「研究入門」で表彰されました

歯学部3年 吉田 力生

この度、「ゾレドロネートを用いた新しい骨代謝メカニズムの探索」という研究課題において成績優秀賞を賜り、大変光栄に存じます。誠にありがとうございます。このような賞を受賞できましたことも、先生方のご指導、ご尽力によるものです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また共に取り組み、意見交換と熟考を繰り返した同輩の存在も不可欠でした。重ねて感謝する次第です。



本研究は、破骨細胞に作用するゾレドロネートにより敗えて骨代謝の破骨細胞と骨芽細胞の均衡を崩し、両細胞の変化、骨の修復と再生の変化を明らかにするものです。これにより新しい骨代謝メカニズム探索

の第一歩とすることを目的としました。

本実習の十日間は大変有意義な時間でした。本物の研究に触れ、多くのことを学ぶことができました。特に、“熟慮の末の洗練された予想が結果との相違点をより鮮明にさせ、考察をより論理的かつ容易にさせる”ことを、研究入門という一連の過程を通して経験できたことが私の最大の学びだったと考えます。

研究入門を通して学び感じたことを糧に、より一層精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 「研究入門」で表彰されました

歯学部4年 清水 美咲

この度、私は令和2年度歯学部研究入門にて、乳酸脱水素酵素の脂肪細胞分化における役割について学ぶことを目的として生化学講座の研究入門に参加し、成績優秀賞第1位を頂きました。



生化学を2年次に学び、その知識をもとに机上のメカニズムを立て、研究を実施したのですが、思うような結果が出ず非常に苦戦しました。予想と違う結果を実験失敗と捉えずに、なぜ予想と違う結果が出たのかを熟考した結果、研究を始める前には思いつかなかったメカニズムに気づくことができ、満足のいく研究発表、並びに研究報告書を作成することにまできました。

私は2年次に薬理学教室の研究入門に参加し、骨粗鬆症治療薬の作用機序について研究し、その際にも成績優秀賞第1位を頂いたのですが、その当時の研究報告書と比較してより論文に近く専門性のあるものに仕上がったと感じています。2年連続で研究入門に参加したこと、成績優秀賞を頂いたこと、これらの経験は貴重であると感じており、今後の研究意欲への糧になると思いました。

今後はマルチドクターとして研究に励んでいく所存です。今回の研究入門を行うにあたりご指導、ご協力いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

### 「研究入門」で表彰されました

歯学部4年 藤島 美穂

この度、令和2年度研究入門の優秀者として表彰していただきました。これまでの学生生活において自分の活動成果を評価していただく機会はあまりなかったので、とてもうれしく感じております。



私は口腔生化学講座にて、「脂肪細胞分化における乳酸脱水素酵素の役割」というテーマで研究を行いました。研究内容が難しく、ついていけない場面も

ありましたが、先生方のご指導や同級生・下級生のアドバイスの下、研究報告書や歯科薬理学講座との合同発表会という形でなんとか日程を終えることができました。実際に研究をしてみて、仲間と協力しながら結論を出すことができたのは、私にとってとても良い経験になりました。この経験を、将来、根拠に基づいた歯科医療の実践に役立てていきたいです。また、もし参加を悩んでいる2・3年生がいたら、ぜひ参加して、研究とはどのようなものなのかを感じて欲しいと思います。

最後に、今回の研究入門にあたり、お世話になりました先生方に心より感謝申し上げます。

### 「研究入門」で表彰されました

歯学部4年 李 悟

この度、私は研究入門に参加し表彰していただきまして大変光栄に感じております。



今回、私は口腔生化学講座に所属し、脂肪細胞分化における乳酸脱水素酵素の役割について研究入門を行いました。現在、本研究内容はほとんど解明されておらず、世界初の発見を見出すという研究の真髄に触れることができました。そのため、予想通りにならない研究の大変さと上手くいった時の達成感を同時に実感できた研究入門であり、大変有意義な経験をさせて頂きました。また、研究報告書を通じて自分の考えを他者に伝わる形で文章化するための工夫など、研究以外でも多くの学びがあったと感じております。講座の先生方も優しく、不明点の質問や研究で躓いた際には非常に丁寧に指導を頂くことができました。先生方には大変ご迷惑をおかけしましたが、先生方のサポートのおかげで楽しく研究をさせて頂くことができました。

今後も今回の研究入門で得た経験を活かし、より一層精進していきたいと考えております。最後になりましたが、ご指導いただきました口腔生化学講座の上條先生、宮本先生、須澤先生、宇山先生、山田先生、吉村先生、笹先生にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

### 受賞

広報委員長 野中 直子

日本顎変形症学会総会・学術大会

(令和3年6月12日)

令和元年度日本顎変形症学会賞(学術奨励賞)

若杉 寛(歯科矯正学講座 助教・歯科)

題名: Comparison of the Mandible Alveolar Bone Width in Skeletal Class III Malocclusion With Open Bite and Non-open Bite Using Cone-beam computed Tomography

## 医学部2年生歯科病院実習が行われました

歯周病学講座 山本 松男

6月15日、22日、29日、7月6日の毎週火曜日に、医学部2年生歯科病院見学として、障がい者歯科、歯科放射線科、顎顔面口腔外科、補綴歯科、高齢者歯科、顎関節症治療科、インプラントセンター、地域連携歯科、口腔リハ科、歯科技工室、美容歯科、歯内治療科、歯周病科、総合診療歯科、小児歯科、矯正歯科の中から2つの診療科を見学してもらいました。

今回の見学実習は医学部第2学年の臨床実習Ⅲ多職種体験実習の一部で、適切な医療が、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師などの各医療専門職の協力・連携をもとに実現されることの理解が目的でした。もともとM2では看護見学実習がありましたが、多職連携の視点より拡大発展された新設科目で、歯科以外にも薬剤師業務、リハビリテーション、臨床検査の見学が含まれ、歯科病院以外に大学病院、東病院、藤が丘病院、藤が丘リハビリテーション病院、横浜市北部病院、江東豊洲病院で受け入れました。事前に、歯科概論や歯科病院診療科紹介の動画を視聴することで予習をしてから現場見学をしました。現場での丁寧な説明に対して活発な質問が出るなど好評であったとのことでした。

7月13日に総まとめ・報告会がありました。医師の歯科医療への理解が深まることは我々にとっても大きなメリットで、昭和大学の医療レベル向上につながるものと期待しています。ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。

## 大学院歯学研究科3年次研究内容中間報告がおこなわれました

大学院歯学研究科運営委員長 弘中 祥司

本年度より、歯学研究科3年次大学院生を対象に研究内容中間報告を6月の昭和大学学士会歯学部例会に併せて行うことが決定されました。例年は3年次の3月に開催しておりましたので、9か月も早く前倒しになりました。前倒した最大の理由は、昭和大学全体で、学位論文が正しくアクセプトされていることが学位授与の条件(必須)となったため、大学院生の研究のゴールをより前に設定する必要が生じたからです。学位審査の手続きの関係上、大学院4年次の論文アクセプトが遅くとも12月となるためには、英文雑誌の場合、8~9月に投稿が必要となり、その1年前には学位論文に着手していなければならない、という点がコンセプトで、ついでに6月の昭和大学学士会歯学部例会を大勢で盛り上げよう!という意図もありました。残念ながら、本年度の6月の昭和大学学士会歯学部例会は誌上開催となり、緊急事態宣言も発出

されましたため、期間を設けて(6月26日から7月9日)少人数での対面またはWebでの対面開催となりました。Google Classroom上に大学院歯学研究科3年次研究内容中間報告のページを作成して(写真)、25名の大学院3年生の進捗状況が把握することができました。歯学研究科長の高見教授と、この時期ではまだそんなに着手できていないかもしれないと予想しておりましたが、反してかなりの完成度の発表も多くみられ、大学院生たちの日々の精進が目につきました。

今後もこの制度を活用して、研究の進捗を陰ながらサポートできるようにしてあげたいと思っております。また、主査・副査(候補)の先生方には、短い期間で評価等の対応いただき、この場をお借りして感謝申し上げます。



## 令和3年度昭和大学学業成績優秀賞を受賞しました

歯学部2年 嘉陽 さくら

この度は、このような名誉ある受賞を頂き、大変光栄に思いつつ、全く意外な事で非常に驚いております。受賞対象者として、昭和大学規程に「学業成績が極めて優秀で且つ人物において非常に優れていると判断される者」と記載があり、私にとっては身に余る思いです。

私は、生後3ヶ月から高校入学時迄、父の仕事の関係で、アメリカウイスコンシン州マディソン市で過ごしました。日本人は私だけの現地校に通い、帰国後初めて日本の学校に通いました。高校の先生方から「3年間で卒業は難しい」と言われ、3年で卒業は出来たものの、大学入試では思う結果が出せず、昭和大学歯学部へは2期の補欠入学で、辛い思いをしてきました。

コロナ禍での大学生スタート、慣れないオンライン授業、不慣れなパソコン操作、富士吉田キャンパスでの2ヶ月だけの短い入寮生活など、今迄にない状況の中で、思い描いていた楽しい大学生活は未だ送っていませんが、受賞を頂いた事は、私にとって今迄の頑張りが少し実ったと感じています。自分に自信が無い私にはプラス材料です。

今後、周りの人達への感謝と尊敬の念を忘れず歯科医療の未来に役立つ歯科医師を目指し邁進していきたいと思っております。

## 令和3年度昭和大学学業成績優秀賞を受賞しました

歯学部3年 村寄 智仁

この度は、このような栄誉ある賞を賜り誠にありがとうございます。このような賞を賜ったのも、共に勉学に励んだ友人、そして新型コロナウイルス蔓延下という異例の状況で分かりやすい講義をしてくださった先生方のおかげだと強く感じております。

昨年は新型コロナウイルスの影響によりほとんどの講義がWebによる受講となり、第2学年に進級した際は不安でした。しかし講義が始まると何度も動画を見返すことができるといったWebならではの利点に気づき、より深い学習に繋げることができました。また解剖発生学や歯科理工学などをはじめとする歯科医師としての基盤となる実習をこのような状況下でも行えるように配慮をして頂きました。実習を行って頂いた各講座の先生方に深く感謝いたします。

第2学年では基礎医学及び歯科医学について学びました。ここで学んだ知識を第3学年以降の臨床科目の学習に繋げることができるように、復習を継続して行いたいと思います。また講義だけの学習だけでなく、自ら疑問に思った部分を調べるといった能動的な学習を取り入れていきたいと思っています。

最後に昭和大学の名に恥じないような歯科医師になるために、継続して勉学に精進してまいります。

## 令和3年度昭和大学学業成績優秀賞を受賞しました

歯学部4年 飯田 萌

この度は、このような賞を頂戴し大変光栄に思います。同時に、今後も賞に見合った学生になるべく勉学に励みたいと、身の引き締まる思いです。

これまで集中して学修を続けることができたのは自分の力だけではなく、質問に親身に付き合ってください先生方や一緒に勉強してくれる同級生の力添えがあってこそだと感じております。そして私がどんな道に進んでも、いつも温かく見守り全力で応援してくれる両親の存在は何よりの励みであり、心から感謝しています。

入学当初、歯科学は口腔のみに特化した学問であると考えていましたが、学ぶにつれ歯科学の面白さや奥深さを感じるようになりました。歯は一度失えば再生することがない特異な組織であり、全身疾患やQOLと密接に関連する点、日々のケアが必要である点などから、人々の生活と健康に直結する要素を多く含んでいます。さらに歯科医師は彫刻のような芸術的ともいえる緻密な治療技術も求められる点も他の学問にはない魅力であると感じています。

豊富な知識と確かな技術を持ち、患者に寄り添って

健康と安心を提供できる、さらには歯科を牽引している歯科医師になれるよう今後も精進していきたいと思っています。

## 令和3年度昭和大学学業成績優秀賞を受賞しました

歯学部5年 木内 彩紀

この度は、昭和大学学業成績優秀賞を頂き誠にありがとうございます。大変嬉しく、光栄に存じます。この賞を受賞できたのも、指導してくださった先生方、共に勉強に励んだ友人達、離れていても応援してくれている家族など、様々な方々の支えがあったからこそだと感じております。この場をお借りして感謝申し上げます。

4年次は新たに矯正、小児、高齢者歯科などの臨床科目の勉強をすると共に、学年末にCBTとOSCEがあり、1年次から4年次まで学習した基礎科目、臨床科目の総復習を行いました。低学年次には気付くことができなかつた、基礎科目と臨床科目の繋がりなど新たな発見もあり、各科目を関連付けて勉強したことにより理解を深めることができたと思います。

5月から臨床実習が始まり、教科書や授業で学んだことを実際に臨床の現場で見て肌で感じることができ、楽しく実りある日々を過ごしております。実習の中で生じた疑問点を日々復習し、4年次までの知識をどう臨床に生かすか学んでいきたいです。

最後に、この賞に恥じぬよう、6年次に控える国家試験に向けて1日1日を大切に座学と実習を一生懸命に励んで参る所存です。

## 令和3年度昭和大学学業成績優秀賞を受賞しました

歯学部6年 根岸 宗一郎

この度は、令和3年度昭和大学学業成績優秀賞に選んでいただきありがとうございます。大変光栄に思っております。一方で、この賞に恥じないようにするにはと身が引き締まる思いです。

昨年からの新型コロナウイルスの蔓延により、私たち学生も、オンラインでの授業やいつもと異なる実習形態、手作りの防護服など戸惑うことがたくさんありました。

その中で5年次の臨床実習ではいろいろな科を体験し、先生方の患者さんに対する真摯な姿勢を間近で感じる事ができました。診療するためにはたくさんの知識と経験を積み重ねていかなければいけないと



少し焦る気持ちにもなりました。

これから、卒業試験や国家試験と、6年間の大学生活の締めくくりの行事が続きます。気持ちを新たに今後もしっかり勉強していきたいと思えます。



## 行事予定

広報委員長 野中 直子

- 8月7日(土)~8日(日) 教育者のためのワークショップ(アドバンス)
- 8月21日(土) 大学院秋季・春季 I 期入試
- 9月11日(土) 歯・薬学部入学説明会  
(動画配信予定)
- 9月30日(木) 大学院秋季修了式

※8月7日・8日に開催予定でした教育者のためのワークショップ(ビギナーズ)は新型コロナの影響で中止となりました。

## お知らせ

広報委員長 野中 直子

この度「歯学部だより」をリニューアルすることになりました。現在、広報委員会でも内容を検討中のため、次号は休刊とさせていただきます。

皆様により内容の充実した「歯学部だより」をお届けできるよう頑張っておりますので、今後とも宜しくお願い致します。

## 編集後記 小児成育歯科学講座 新田 雅一

この7号を編集している間にオリンピックは終了してしまいました。いろいろありましたが、この新型コロナ下であっても頑張ってきた日本の選手たちの活躍をみていると、今のこの状況に負けてはいかん！と気持ちが鼓舞されます。また、お気づきになった方もいるかもしれませんが、テレビ越しに選手の口元を見ると、競技によりませんが、透明のスポーツマウスガードを装着している人が結構見受けられました。「ウォーリーを探せ」ではないですが、今後の競技観戦の合間に探してみてもいいかもしれません。

さて、今現在昭和大学スポーツ運動科学研究所で

は、次回のパリオリンピックで競技種目に加わった「ブレイクダンス」のオリンピック強化選手のメディカルチェックを行っています。もちろん歯科の分野でもデンタルチェックを行い、私も携わらせていただいております。ヒップホップやブレイクダンスと聞くと軽い感じを受ける方もいると思われそうですが、選手たちは温文爾雅であり、日本の代表としてふさわしい方々です。メンバーはプロとして活躍する世界チャンピオンから、これから頭角を現すであろう10代の選手と、今後の活躍に目が離せません。

そして、われらが昭和大学を代表するチームも忘れてはなりません。そう昭和大学女子アイスホッケークラブのブルーウィンズです。HP をご覧になった方は

ご存じかもしれませんが、この新型コロナ下にもかかわらず、冬季の大会にて多くの優勝

を果たしています。メンバーは、北は北海道から南は岡山県と今のご時世ではなかなか行き来が難しく、合同練習も困難な中、Zoom などを用いて連携を取ってまさに天涯比隣のチームであります。今年4月に新たにメンバーも加わり、中学生から主婦まで幅広い世代のチームではありますが、今後の益々の活躍に応援のほどよろしく願いいたします。選手の何人かは昭和大学の事務職員の方もいらっしゃいますので、大学内でお世話になった際は、業務に差支えない範囲での応援もお願いいたします。

話は変わりますが、先週息子の誕生日で鰻を食べました。実家の長野にある「やなのうなぎ観光壮」のウナギの蒲焼きを送ってもらったのですが、炭火焼きでとても美味しかったです。毎年、編集後記に鰻を食べたいと書いてはいましたが、今年は編集集中に食べてしまいました。皆さんもぜひ鰻を食べて体力をつけて、毎日の暑さと、新型コロナを乗り切りましょう。

最後になりますが、この度は大変お忙しい中ご寄稿いただいた先生および学生、御高閲いただいた広報委員の方々、本当にありがとうございました。この場をお借りして深くお礼を申し上げます。

